

大名児 波方野辺に 刈る草の 束の間も 吾れ忘れぬや



おおなこをちかたのべにかるかやのつか 万葉集 卷二 草壁皇子 大名児は石川女郎
大名児よ 私が遠くの野辺で茅を刈っていても、その一束を掴む間も私は想っているのだよ